

産業・経済専門委員会 提言書

【農業振興・商工業振興・観光振興】

～ 提言にあたって ～

私たち「産業・経済専門委員会」では、昨年度市が行った「東御市まちづくりアンケート調査」結果から“市民が求めているものは何か”をはっきりさせた中で、「農業」「商工業」「企業立地」「観光」の4つの分野について、普段から感じている改善点や、今後こうなってほしいと願う思いを話し合っ、て、「提言」にまとめてきました。

東御市の産業・経済分野における「将来のあるべき姿」について討議を進める中、提言にあたっては内容が抽象的にならないように、なるべく具体的な取り組み方策を言及して提言させていただきました。

当委員会の提言テーマは7つありますが、全てに共通して「雇用の創出と労働環境の充実」をその根底に求めています。これは市民アンケートにおいて、すべての年代層が“安心して働ける環境”を求めている声があることを重く受け止めたことに外なりません。

安心して働くことができ、文化的で豊かな生活ができる東御市になってほしいという願い、そして「雇用を確保」することは市の“自主財源の確保”にとってきっと大きな効果をもたらすに違いない、ということを当委員会が提言の柱としていることにご理解いただき、新しい総合計画では当委員会の提言が活かされますよう、心より期待しています。

部会長 佐藤 正彦

【産業・経済専門委員会名簿】

佐藤 正彦	小山 貞光	宮崎 隆志
竹内 爾恵子	笹平 千賀子	寺島 尊 (東御市 農林課長)
横井 憲一	永井 忠	山崎 廣男 (東御市 商工観光課長)
峯村 文博	小山 濟	
荒井 加代子	唐沢 智明	(順不同)

【提言テーマとその具体的な方策】**【農業分野】****1、全国に発信できる東御ブランドを確立する**

- ①都市圏流通を拡大させるための「東御ブランド」認定制度をつくります
- ②地産地消の拡大のために食材提供ネットワークをつくります
- ③「東御レシピ」をつくり東御市版レシピ投稿・紹介サイトを設け全国発信します

2、豊かな農村環境を支える中山間地農業を市民力で維持する

- ①中山間地域の小規模耕地における「市民農園」の普及拡大を進めます
- ②首都圏の学生などの「日帰り農業体験」の受入れを進めるとともに、「長期滞在型の農業体験」の可能性も研究します

3、担い手農業者を支援して確かな農業をつくる

- ①担い手農業者への支援を充実させます
- ②畑地の圃場整備を積極的に推進します
- ③広域的な農作業互助制度を推進します
- ④海外向け果樹の品種改良と果樹加工の研究を進めます

【商工業分野】**4、商店街に市民の憩いの場を設けて賑わいとふれあいを呼ぶ**

- ①田中商店街に「まちなか広場」を開設し市民交流を促進します
- ②ゆうふる田中の屋外空きスペースを利用し「楽市フェスタ」（仮称）を開催します

5、地域特性を活かせる新産業などを誘致して雇用を拡げる

- ①新生活産業（子育て、福祉、健康分野）の誘致を進めます
- ②産・学・官による新産業（バイオ・医療技術・IT・宇宙産業など）の研究します
- ③公社造成地の販売促進による企業誘致を進めます
- ④食品加工（巨峰・くるみ）ができる産業観光企業を誘致します

【観光分野】**6、観光資源を活用しておもてなしを実現する**

- ①観光ガイド・ボランティア制度をつくります
- ②海野宿の観光拠点化によって誘客を促進します

7、情報発信ステーションをつくり都市圏との交流を拡大させる

- ①東御市の魅力を伝える情報発信基地をつくります

＜提言テーマ説明資料＞

【テーマ1】

全国に発信できる東御ブランドを確立する

【提言の主旨】

東御市は、日当たりが良く雨が少ないという恵まれた気象条件のもと、他に引けを取らない優れた農作物が豊富にあります。これら農業を引き続き持続発展させていくことが必要であると考えています。

生産基盤を守り、自信をもって農業を営むためには、“他よりも優れている”市特有の農作物を、市民みんなで消費することはもちろん、来訪客や都市圏への流通ルートに乗せて消費を増大させていくことが何よりも必要です。

「東御ブランド」を確立し、効果的な情報発信を進めることは、観光誘客にもつながり、やがては交流人口を増やし、地域全体が活性化する大きな力となってくるものと考えます。

【具体的な方策】

① 都市圏流通を拡大させるための「東御ブランド」認定制度をつくります

…東御市産の農畜産物の消費拡大のため、一定基準に基づく「東御ブランド」認定制度をつくり、東御市農畜産物の優位性をアピールしていくことが必要です。

＜行政の役割＞

- ・農畜産物の消費拡大を進めるため、「東御ブランド」の創設に向け、広く市民、企業などの事業者、有識者等の参画を得て協議会（仮称）を立ち上げ、話し合いを進めます
- ・「東御ブランド」認定制度に合わせ、PR用キャラクターと東御ブランドシールの開発を検討していきます。
- ・大田区にアンテナショップを確保していくことが可能なのか、ネット販売が有効なのかを広く検討する場を設け、都市圏流通につながる道筋を探っていきます

＜事業者（生産者）の役割＞

- ・協議会（仮称）や振興公社が中心となって、大田区での販売協力店を確保するなど、農畜産物消費拡大のためのセールスを進めます

＜市民の役割＞

- ・PR用キャラクターと東御ブランドシールのデザインを考えます
- ・情報通信媒体を通じて東御市の農産物を全国へPRします

② 地産地消の拡大のために食材提供ネットワークをつくります

…東御市産の安全・安心な農畜産物食材を学校、市内小売店、飲食店に供給していく「食材提供ネットワーク」制度をつくっていくことが必要です。また、一定の基準によって農畜産物を取り扱う市内の小売店、飲食店には、「東御ブランド」推進店の称号制度を設け、地産地消を進めていくことが必要です。

<行政の役割>

- ・地産地消の拡大のため、広く市民、企業などの事業者、有識者等の参画を得て協議会（仮称）を立ち上げ、話し合いを進めます
- ・「東御ブランド」推進店には、公式ホームページやパンフレット等、様々な情報媒体を通じ、無料で店の紹介や宣伝をしていきます
- ・近隣市町村と連携してジビエの流通体系（狩猟者→食肉→小売店）をつくり、ジビエを欲しい消費者が容易に確保できるような仕組みをつくります

<協議会の役割>

- ・協議会では、消費者たる学校・地域小売店・飲食店の需要を把握して需要と供給を調整し、「地産地消流通システム」を運用する実行組織の立ち上げを検討します

<市民の役割>

- ・地場産優良農畜産物である「東御ブランド」を積極的に消費します
- ・情報通信媒体を通じて東御ブランドを全国へPRします

③ 「東御レシピ」をつくり、東御市版のレシピ投稿・紹介サイトを設け全国発信します

…「東御ブランド」を使った独自のレシピをインターネット回線など通じて内外に発信する仕組みをつくり、東御産食材の普及と購入意欲を高めていくことが必要です。

<行政の役割>

- ・インターネット上に東御市版のレシピ投稿・紹介サイトを設けていくことについて、広く市民、企業などの事業者、有識者等の参画を得て協議会（仮称）を立ち上げ、協議していく場を設けます
- ・インターネット上のサイト構築については十分な検討を必要とするため、市報などの身近な情報媒体へ掲載していくなど、できることから始めます
- ・「味の研究会」や「味の里とうみ」などの農産物加工事業者との連携によってレシピを作成し普及させることにより、事業者を内外にPRする機会もつくっていきます

<協議会（仮称）の役割>

- ・東御市版のレシピ投稿・紹介サイトをインターネット上に構築することや、農畜産物のお取り寄せ情報、ネット販売の可能性についても検討します
- ・市民から集まったレシピで「東御レシピ本」を作り、行政施設、観光施設、飲食店、商店などに無料配布することも検討します
- ・インターネットを使えない世代（人）からもレシピを収集する仕組みも検討します

- ・地場産農作物の料理教室を計画し、地産地消の普及拡大を進めます

＜市民の役割＞

- ・東御市版のレシピ投稿・紹介サイトが構築されたら積極的に「東御レシピ」を書き込み紹介します
- ・東御市版のレシピ投稿・紹介サイトに限らず、昔ながらの地場農産物を使った料理を若い世代に伝えていきます
- ・地産地消のため、行政から要請があった場合は、積極的に料理教室の講師役を務めます

【テーマ2】

豊かな農村環境を支える中山間地農業を市民力で維持する

【提言の主旨】

私たちが暮らす中山間地域は、農林業の場であり、生活の場でもあります。美しい自然があるだけでなく、農民の長い営みの中で、建造物、生態の多様性、独自の景観など、貴重な財産が形成されてきました。

しかし、総人口の1割に満たない中山間地域は、成長率が低く、雇用の機会も極めて少なく、多くの課題を有しており、それを解決するための具体策もありません。

片や現代社会は、高ストレス社会であり、成熟仕切った社会であります。それが故に我々の居住空間とは違った特性を有していますが、人々に潤いと安らぎを与えてくれるような機能は備わっていません。中山間地の農村環境、農村景観の維持は、今や全市的な問題であります。成熟社会と中山間地を結ぶコーディネーターを養成し、中山間地の活性化を図っていくことが必要であろうと考えますが、まずは市民力や地域力を結集して豊かな農村環境を守っていく取り組みを進めることが必要であると考えます。

【具体的な方策】

① 中山間地域の小規模耕地における「市民農園」の普及拡大を進めます

…農地の流動化が進まない小規模な耕地については、“農にふれ農村環境を守ろう”を合言葉に、市民農園としての貸出しを推進していくことが必要です。

＜行政の役割＞

- ・市民農園制度の普及拡大のため、有効な広報手段を講じます
- ・市民農園利用マップを作成し、内外に情報提供していきます

＜市民農園制度の運用に関与する団体等の役割＞

- ・作物づくりのアドバイスや、圃場の見守りを行い、借り手への支援を進めます

＜借り手となる市民の役割＞

- ・農作物を自らでつくることに関心を持ち、積極的に家庭菜園に取り組みます

② 首都圏の学生などの「日帰り農業体験」の受入れを進めるとともに、「長期滞在型の農業体験」の可能性も研究します

…日帰り農業体験制度をつくり、都会の若者との交流を通じて農業の活性化を図っていくことが必要です。

また、都市生活者との交流を図り、「長期滞在型の農業体験」の可能性も検討します。

<行政の役割>

- ・体験農場や振興公社と協力・連携して、首都圏からの日帰り農業の仕組みを構築します
- ・公式ホームページやパンフレット等、様々な情報媒体を通じ、内外に事業を発信します
- ・都市生活者の長期滞在ニーズを把握し、「長期滞在型の農業体験」の調査研究を進めます

<事業者の役割>

- ・振興公社、観光協会も参画し、各種学校等に営業して体験客を確保します

<市民の役割>

- ・積極的に都会の若者を受け入れます

【テーマ3】

担い手農業者を支援して確かな農業をつくる

【提言の主旨】

東御市の農業は、ワイン特区など、まだまだ伸びる可能性もあり、新規就農者も無い訳ではありません。TPPの導入が叫ばれる中、担い手農家を支援していく農地の流動化や基盤整備といった国、県、市の「農業対策」に取り組んでいくことは当然ですが、今以上の創意工夫とスピード意識をもって、確固たる農業経営に結びつく“次なる一手”の仕組みをつくり、実践していくことが必要であると考えます。

【具体的な方策】

① 担い手農業者への支援を充実させます

…高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加を防ぐため、農業経営への意欲や能力のある担い手農業者が安心して農業を営むことができるよう支援することが大切です。

新規就農者のための就農時の「所得の確保」や、担い手農業者の規模拡大に伴う「流動化」「集積化」など、不安を解消していく支援が必要です。

<行政の役割>

- ・担い手の育成・確保を金融面から強力に支援するため、資金利用のノウハウを集積します
- ・法人化支援・農地の集積、利用調整など、担い手向けのサポート活動を充実します

② 畑地の圃場整備を積極的に推進します

…東御市では、水田の圃場整備と比較し畑地の圃場整備はそれほど進んでいません。畑地の圃場整備を推進し、大型機械の導入など効率的な作業によって、省力・低コスト生産を実現していくことが、やがては担い手農業者への農地利用集積や荒廃地対策につながってくるものと考えます。

<行政の役割>

- ・畑作農業者に対し畑地の圃場整備ニーズを調査し、事業の実施の可能性を協議していく場を設けます

③ 広域的な農作業互助制度を推進します

…東御市と周辺市町村が互いに農繁期に助け合えるよう、農業人材の互助制度を推進していく必要があります。

<行政の役割>

- ・広域的農作業互助制度を推進します
- ・広く農業者に認知されるよう、制度を有効にPRするとともに、次期的な需給バランスを考慮した人材の確保を進めます

<市民の役割>

- ・農業者は積極的に互助制度に参加します

④ 海外向け果樹の品種改良と果樹加工の研究を進めます

…東御市の主力製品であるブドウ、リンゴ、クルミなどの果樹の海外展開を視野に、品種改良や加工を研究していくことも必要です。

<行政の役割>

- ・果樹試験場、信州大と提携し、海外競争力のある農作物の研究を進めます

【提言テーマ4】

商店街に市民の憩いの場を設けて賑わいとふれあいを呼ぶ

【提言の主旨】

東御市の玄関口である田中駅や中心市街地にあたる田中商店街には賑わいが感じられません。商店街に求める市民ニーズが、すでに買い物欲求では無い時代を迎えていることを考えると、往時の賑わいを「商業」だけで復活させていくことは難しいように考えます。新たな魅力をプラスして、市民交流のできる新しい商店街をつくっていく必要があると考えます。

【具体的な方策】

① 田中商店街に「まちなか広場」を開設し、市民交流を促進します

…商店街の空き店舗等のスペースに、誰もが気軽に立ち寄れる市民の憩いの場をつくり、市民交流を喚起し、活性化させていくことが必要です。

＜行政の役割＞

- ・「まちなか広場」の施設を確保します
- ・市の情報やイベント情報、生活情報を提供します
- ・デマンド交通の駅に指定します

＜事業者の役割＞

- ・商業街に賑わいを呼ぶため、自助・共助による努力姿勢を地域に発信します
- ・商店街の組合などが中心となって「まちなか広場」の施設管理を進めます

＜市民の役割＞

- ・「まちなか広場」を利用し、交流の輪を広げます
- ・フリーマーケットや野菜直売など、いろんな企画を「まちなか広場」へ提案します

② ゆうふるtanakaの屋外空きスペースを利用し「楽市フェスタ」(仮称)を開催します

…ゆうふるtanakaは、駅に隣接した格好の場所に位置していますから、駅の利用者が気軽に立ち寄れる、魅力あるイベントを定期的で開催していきます。

＜行政の役割＞

- ・毎月13日を「とうみ楽市フェスタ」の日に指定し、内外に宣伝します

＜事業者の役割＞

- ・振興公社は、ゆうふるtanakaの屋外スペースを「とうみ楽市フェスタ」の会場として無償提供します
- ・夏場にはビアガーデンを企画して、「とうみ楽市フェスタ」の誘客を応援します。

＜市民の役割＞

- ・「とうみ楽市フェスタ」へ出店し、フリーマーケットや農産物等の直売を行います。

【提言テーマ5】

地域特性を活かせる新産業などを誘致して雇用を拡げる

【提言の主旨】

東御市の企業誘致に関しては、今まで製造業を中心に取り組みがなされてきていますが、長引く景気低迷の中で誘致は進んでいないのが現実です。そのため製造業というよりはむしろ、福祉や健康産業といった新産業に目を向けていくことや、条件付きの企業誘致、特産品加工産業の誘致が必要であると考えます。

【具体的な方策】

① 新生活産業（子育て、福祉、健康分野）の誘致を進めます

…東御市は、心休まる豊かな自然環境が備わっていることに加え、都心から近いという好条件を有しています。そのため、都市部で不足している介護施設や健康保養施設を誘致し、雇用を創出していくことが必要と考えます。

＜行政の役割＞

- ・自然環境と都心からも近い利点をPRし、子育て、介護、健康などの新生活産業の誘致を進め、地域に雇用を創出します

② 産・学・官による新産業（バイオ・医療技術・IT・宇宙産業など）を研究します

…今までの東御市には、学術研究機関がほとんどないため、長野県や信州大学、企業と連携する産・学・官の共同研究を進め、新たな産業を創出していくことも必要です。

＜行政の役割＞

- ・研究機関を設置できるよう、東御市にゆかりのある学者や企業退職者、技術者に広く呼び掛けます

③ 公社造成地の販売促進による企業誘致を進めます

…雇用の創出のため、企業誘致を強力に進めることが必要です。画期的な企業等の誘致策として、一定条件を承諾する企業へ無償で土地を貸与していくことも検討していく必要があります。

＜行政の役割＞

- ・市民力、地域力を活用し協働して企業の誘致策を練り上げ実践します
- ・誘致が可能であれば、土地開発公社造成地の無償貸与までも視野に検討します

- ・無償貸与による誘致には、①社屋の建設は東御市内業者に限定する、②採用は東御市民を優先する、③採用者につき、将来は正職員を確約する、ことなどの条件整備をします

④ 食品加工（巨峰・くるみ）ができる産業観光企業を誘致します

…②同様の条件のもと、市の特産品である巨峰やくるみの加工ができ、かつ観光側面として訪れる人が味わい、楽しめる空間を兼ね備えた、伊那市の「かんでんパパ」のような産業観光企業を誘致する。

【提言テーマ6】

観光資源を活用しておもてなしを実現する

【提言の主旨】

観光拠点としての海野宿、湯の丸高原、芸術むら公園は市内外に定着しています。“おもてなし”の心といったソフト面を充実させるため、独自に観光ガイド・ボランティアを養成する仕組みをつくっていく必要があると考えます。

【具体的な方策】

① 観光ガイド・ボランティア制度をつくります

…“おもてなし”実現のために、観光地のからの要請に応える東御市独自の有償観光ガイド・ボランティアを養成していくことが必要です。

＜行政の役割＞

- ・観光ボランティア講座を開設し認定制度をつくります
- ・市民観光ガイド登録制度をつくります

＜事業者の役割＞

- ・東御市観光協会では、市民観光ガイドの養成・認定を進めるとともに、需要と供給を把握し、市民観光ガイド登録制度を運用します
- ・観光事業者は、市民ガイドの活用を積極的に進めます

＜市民の役割＞

- ・郷土の歴史、自然に興味のある市民は積極的に市民観光ガイド養成講座に参加します

② 海野宿の観光拠点化によって誘客を促進します

…知名度のある海野宿を観光スポットに誘客を図ることが必要です。

＜行政の役割＞

- ・海野宿の車両通行規制を実現します
- ・海野宿に近い千曲川沿いに散策路を設けていきます
- ・駐車場を増設します

＜事業者の役割＞

- ・観光協会は、海野宿観光ツアーの企画を観光会社などに働きかけます
- ・観光協会は、田中駅から海野宿まで、わかりやすい標識を設置します

＜市民の役割＞

- ・郷土の歴史、自然に興味のある市民は積極的に市民観光ガイド養成講座に参加します
- ・観光ガイド登録しておもてなしに参加します
- ・市の観光の魅力について、情報通信媒体などを通じて全国へPRします

【提言テーマ7】

情報発信ステーションをつくり都市圏との交流を拡大させる

【提言の主旨】

農業、商工業、観光にすべて共通して言える点は「情報発信なくして発展はなし」にあると考えます。現状、東御市と聞いてもピンとくる人は少ないと感じています。東御市の魅力を外へ売り込み知名度を上げ、他とは違う魅力を発信していかなければ、定住促進、来訪・交流促進、ビジネス促進にはつながっていかないと考えます。

【具体的な方策】

① 東御市の魅力を伝える情報発信基地をつくります

…ホームページでは魅力を伝えることに限界があるため、来訪者に直接説明できる“とうみの魅力発信”窓口を設置することが必要であると考えます。

＜行政の役割＞

- ・市全体の魅力をトータルに発信できる担当窓口をつくります
- ・あらゆる情報通信媒体の活用を研究します
- ・雷電くるみの里では年間45万人のレジ通過者がいることから、雷電くるみの里の施設機能をさらに充実し、内外にPRします

＜事業者の役割＞

- ・観光協会は、道の駅などの観光拠点に常駐できるように検討します。また、観光のみならず特産物のPRなども発信できるようにします
- ・大田区への農産物販売や東御ブランドの紹介にも観光協会が関わっていきます